

カツラネクイハムシ *Donacia katsurai* Kimoto

【選定理由】

本県が分布の東限となっており、学術的にも重要な種である。本種は、都市化による環境悪化が著しい丘陵地の湿地・湿原を生息場所とし、現在確認されているのは3ヶ所しかない。

【形態】

体長5～8mm。通常金銅色であるが希に青色、赤色のものが出現する。各脚は短く、体形はやや筒状。腹部第一節は、以降の節の和より長い。前胸背はほとんど皺がなく、粗い点刻におおわれる。ツヤネクイハムシに似るが、本種は肢全体が金属色をしており判別できる。

【分布の概要】

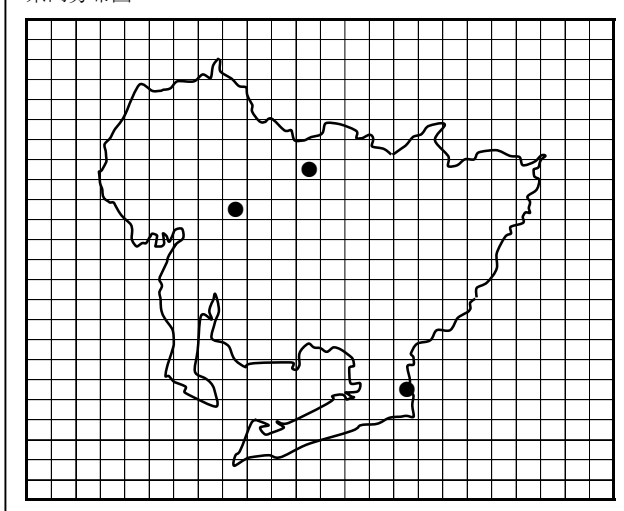
【県内の分布】

豊橋市葦毛湿原（野尻湖昆虫グループ、1985）、豊田市昭和の森（長谷川・吉富、1998）、名古屋市天白区平針（長谷川・吉富、1998）。

【国内の分布】

本州。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の明るい湿原に生息する。成虫は5～6月に出現し、ヤチカワズスゲ、タチスゲやキヌガサスゲなどの葉、あるいは花を食べる。幼虫は土中でこれらのスゲ類の根を食べることが知られているが、詳しいことは分かっていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息地のうち、豊橋市葦毛湿原、豊田市昭和の森は、湿原全体の保護施策がとられているが、ここ数年葦毛湿原では未確認である。本種は丘陵地の明るい湿地に生息するが、限られた場所で僅かに残存しているにすぎない。生息場所の湿原・湿地の乾燥化による面積の減少や環境の悪化は、生存を脅かす恐れがある。

【保全上の留意点】

本種が生息する湿地・湿原は、ヒメタイコウチ、ヒメヒカゲ、ニホンアカジマウンカ、ハッチョウトンボなど、当地方を代表する希少昆虫を伴うことが多い特殊な環境である。周辺部を含めた現状の環境保全に留意すべきである。

【特記事項】

豊橋市は現在知られる本種の東限産地である。

【引用文献】

長谷川道明・吉富博之、1998. 愛知県のネクイハムシ類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (8): 41-48.
野尻湖昆虫グループ、1985. 日本のネクイハムシ. 野尻湖昆虫グループ.

【関連文献】

林 成多、2004. 総説・日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 29-126.

(2009年版を一部修正)